

川崎市建築物環境配慮制度受付番号 22064

建築物名称	(仮称)ヤオコー川崎上麻生店新築工事
建築主	株式会社 ヤオコー 代表取締役 川野 澄人
建築物の所在地	川崎市麻生区上麻生三丁目1番1、1番2、1番3
設計者氏名、建築士事務所名	内海 幸夫 株式会社九段建築研究所 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	5,634.69㎡
用途	物品販売業を営む店舗
構造	鉄骨造 一部鉄筋コンクリート造
階数	地上1階、地下2階
工事完了年月	令和6年10月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

CASBEE川崎

■使用評価マニュアル: CASBEE-川崎2017年版

使用評価ソフト: CASBEE-川崎2017(v.3.1)

評価結果

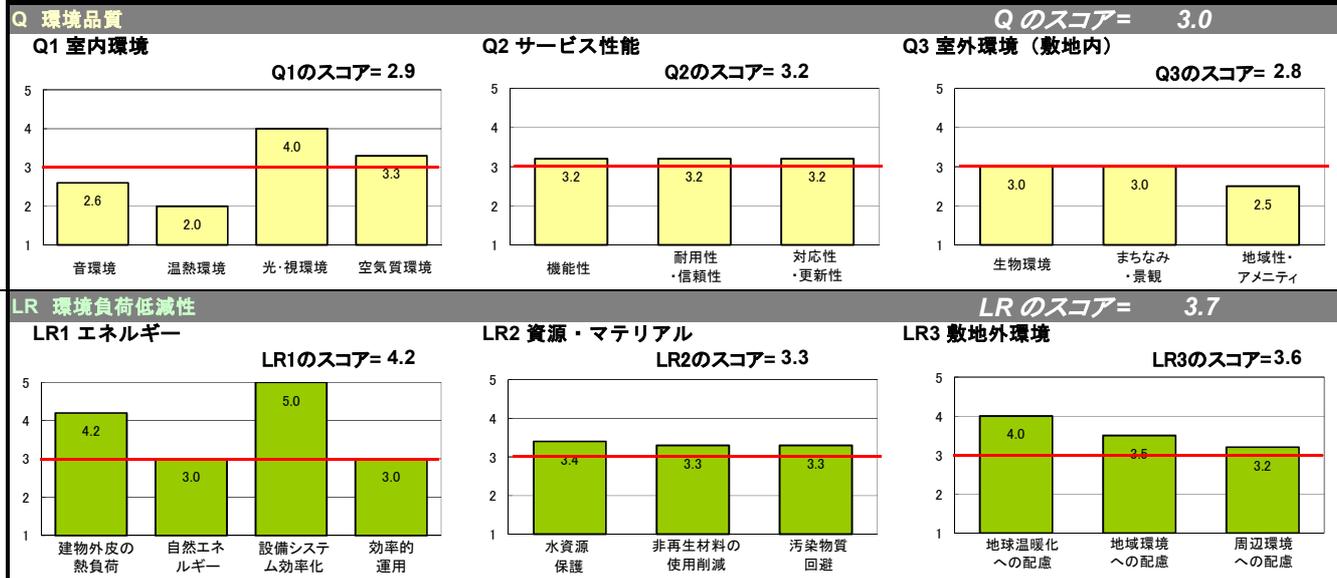
1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ヤオコー川崎上麻生店 新築工事	階数	地下2F、地上1F
建設地	川崎市麻生区上麻生三丁目	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域、第二種中高層住居専用、準防火地域	平均居住人員	549 人
地域区分	6地域	年間使用時間	4,964 時間/年(想定値)
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年10月 竣工	評価の実施日	2023年3月23日
敷地面積	6,740 m ²	作成者	立石のぞみ
建築面積	2,908 m ²	確認日	2023年3月23日
延床面積	5,635 m ²	確認者	内海幸夫

外観パース等
パースの公表を希望される場合は
図を貼り付けてください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート) 2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート) 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



2-4 中項目の評価(バーチャート)



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.9
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策	-		
1 生物環境の保全と創出		2.4/4.3	2.8
2 まちなみ・景観への配慮			
3 敷地内温熱環境の向上			
LR-3 ■ 敷地外環境対策	-		
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	3.3
Q-1 ■ 室内環境対策	-		
2 2.1 2.1.2 外皮性能	・遮音/断熱性能のよい外皮材料とする。	0.5/0.8	3.2
3 3.1 3.1.3 昼光利用設備			
3.2 3.2.1 昼光制御			
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策	-		
1 生物環境の保全と創出		1.2/2.3	2.7
3 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策	-		
1 建物外皮の熱負荷抑制	・高効率な設備機器を採用し、エネルギーの効率的利用に配慮している。	4.2/5.0	4.2
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策	-		
1 水資源保護	・主要水栓は節水器具とし、節水便器を使用する等水資源の保護に配慮している。	3.2/4.7	3.4
2 非再生性資源の使用量削減			
3 3.2 フロン・ハロンの回避			
LR-3 ■ 敷地外環境対策	-		
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	3.6
Q-2 ■ サービス性能対策	-		
2 2.2 部品・部材の耐用年数	・耐用年数の長い外装材を採用し、建物の耐用性の向上に配慮している。	0.3/0.5	3.8
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策	-		
1 水資源保護	・主要水栓は節水器具とし、節水便器を使用する等水資源の保護に配慮している。	2.7/4.0	3.3
2 非再生性資源の使用量削減			
LR-3 ■ 敷地外環境対策	-		
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制	・駐車場の確保や出入りのしやすい駐車場計画により、交通渋滞緩和に配慮している。	0.3/0.4	3.6
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	3.3
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策	-		
1 生物環境の保全と創出		1.2/2.3	2.7
3 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策	-		
1 建物外皮の熱負荷抑制	・高効率な設備機器を採用し、エネルギーの効率的利用に配慮している。	4.2/5.0	4.2
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-3 ■ 敷地外環境対策	-		
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **3.3**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策	-		
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.1	3.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策	-		
2 2.2 既存建築躯体等の継続利用		0.8/1.3	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策	-		
1 建物外皮の熱負荷抑制	・高効率な設備機器を採用し、エネルギーの効率的利用に配慮している。	4.2/5.0	4.2
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート	実施設計段階				環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
	重点項目	G	W	R		H	評価点	重み係数	評価点	
配慮項目										
Q 建築物の環境品質										3.0
Q1 室内環境							0.40		-	2.9
1 音環境						2.6	0.15		-	2.6
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.40		-	
1.2 遮音						3.0	0.40		-	
1 開口部遮音性能					Dr-45以上	3.0	1.00		-	
2 界壁遮音性能						5.0	-		-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						-	-		-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-	-		-	
1.3 吸音						1.0	0.20		-	
2 温熱環境						2.0	0.35		-	2.0
2.1 室温制御						3.1	0.50		-	
1 室温						3.0	0.50		-	
2 外皮性能		W			断熱性能の高い外皮材料を使用	3.9	0.17		-	
3 ゾーン別制御性						3.0	0.33		-	
2.2 湿度制御						1.0	0.20		-	
2.3 空調方式						1.0	0.30		-	
3 光・視環境						4.0	0.25		-	4.0
3.1 昼光利用						3.0	0.50		-	
1 昼光率							-		-	
2 方位別開口							-		-	
3 昼光利用設備		W				3.0	1.00		-	
3.2 グレア対策							-		-	
1 昼光制御		W					-		-	
3.3 照度							-		-	
3.4 照明制御					1作業単位以下で制御、端末スイッチで調整可能	5.0	0.50		-	
4 空気質環境						3.3	0.25		-	3.3
4.1 発生源対策						3.0	0.50		-	
1 化学汚染物質						3.0	1.00		-	
4.2 換気						4.0	0.30		-	
1 換気量						3.0	0.50		-	
2 自然換気性能					給気方向に排気口の設置はない		-		-	
3 取り入れ外気への配慮						5.0	0.50		-	
4.3 運用管理						3.0	0.20		-	
1 CO ₂ の監視						3.0	0.50		-	
2 喫煙の制御						3.0	0.50		-	

Q2 サービス性能					—	0.30	-	-	3.2
1 機能性									3.2
1.1 機能性・使いやすさ									3.0
1	広さ・収納性								-
2	高度情報通信設備対応								-
3	バリアフリー計画								3.0
1.2 心理性・快適性									3.3
1	広さ感・景観								5.0
2	リフレッシュスペース								2.0
3	内装計画								3.0
1.3 維持管理									3.5
1	維持管理に配慮した設計								4.0
2	維持管理用機能の確保								3.0
2 耐用性・信頼性									3.2
2.1 耐震・免震・制震・制振									3.0
1	耐震性(建物のこわれにくさ)								3.0
2	免震・制震・制振性能								3.0
2.2 部品・部材の耐用年数									3.8
1	躯体材料の耐用年数		R						3.0
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔		R						5.0
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		R						3.0
4	空調換気ダクトの更新必要間隔		R						3.0
5	空調・給排水配管の更新必要間隔		R						5.0
6	主要設備機器の更新必要間隔		R						3.0
2.4 信頼性									2.8
1	空調・換気設備								3.0
2	給排水・衛生設備								2.0
3	電気設備								3.0
4	機械・配管支持方法								3.0
5	通信・情報設備								3.0
3 対応性・更新性									3.2
3.1 空間のゆとり									3.8
1	階高のゆとり								3.0
2	空間の形状・自由さ								5.0
3.2 荷重のゆとり									3.0
3.3 設備の更新性									3.0
1	空調配管の更新性								3.0
2	給排水管の更新性								3.0
3	電気配線の更新性								3.0
4	通信配線の更新性								3.0
5	設備機器の更新性								3.0
6	バックアップスペースの確保								3.0
Q3 室外環境(敷地内)									—
1 生物環境の保全と創出				G	W				3.0
2 まちなみ・景観への配慮				G					3.0
3 地域性・アメニティへの配慮									2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上									3.0
3.2 敷地内温熱環境の向上				G	W				2.0

LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	3.7
LR1 エネルギー					0.40	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制	W		H	断熱性能の高い躯体構成及び建築材を使用	4.2	0.20	-	4.2
2 自然エネルギー利用	W		H		3.0	0.10	-	3.0
3 設備システムの高効率化	W		H	[BEI][BEIm] = 0.70	5.0	0.50	-	5.0
4 効率的運用					3.0	0.20	-	3.0
集合住宅以外の評価					3.0	1.00	-	-
4.1 モニタリング	W		H		3.0	0.50	-	-
4.2 運用管理体制	W		H		3.0	0.50	-	-
集合住宅の評価					-	-	-	-
4.1 モニタリング	W		H		-	-	-	-
4.2 運用管理体制	W		H		-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル					0.30	-	-	3.3
1 水資源保護	W		R		3.4	0.20	-	3.4
1.1 節水				自動水栓に加えて節水型便器を採用	4.0	0.40	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60	-	-
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	0.70	-	-
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	0.30	-	-
2 非再生性資源の使用量削減					3.3	0.60	-	3.3
2.1 材料使用量の削減	W		R	ハイベースNEO工法、GLデッキ等を採用	4.0	0.11	-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用	W		R		3.0	0.22	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	W		R		3.0	0.22	-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	W		R		3.0	0.22	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材	W		R		-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	W		R	躯体と仕上材の分離が容易である	4.0	0.22	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.3	0.20	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.30	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避					3.5	0.70	-	-
1 消火剤	W				-	-	-	-
2 発泡剤(断熱材等)	W			GWP値の低い断熱材の採用	4.0	0.50	-	-
3 冷媒	W				3.0	0.50	-	-

LR3 敷地外環境					—	0.30	-	-	3.6	
1 地球温暖化への配慮			W		高効率な設備機器の採用によるCO2の削減	4.0	0.33	-	-	4.0
2 地域環境への配慮						3.5	0.33	-	-	3.5
2.1 大気汚染防止					燃焼機器の設置は無い	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		G	W	H		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制						3.2	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減			R		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制			R		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制			R	駐輪・駐車台数を確保し車両出入時の混雑を避けた計画	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制			R		2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮						3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止						3.0	0.40	-	-	
1	騒音					3.0	1.00	-	-	
2	振動					-	-	-	-	
3	悪臭					-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制						3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制					3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制						-	-	-	
3	日照障害の抑制					3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制						4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				周囲への漏れ光に配慮した屋外照明計画	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0	0.30	-	-	